

自己評価報告書

平成23年5月6日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)一般

研究期間：2008～2011

課題番号：20530243

研究課題名(和文) 東アジアにおける経済グローバル化の進展と経済的不均衡に関する
実証的研究研究課題名(英文) Empirical Analysis on the Economic Globalization and Economic
Inequality in East Asia

研究代表者

大坂 仁 (OSAKA HITOSHI)

九州大学・大学院経済学研究院・教授

研究者番号：90315044

研究分野：開発経済

科研費の分科・細目：3605

キーワード：東アジア、経済グローバル化、不均衡

1. 研究計画の概要

東アジアの急速な経済成長は常に学術的関心を引き続け、経済成長の要因分析などこれまでに多くの研究論文を生み出してきた。しかし、その一方で負の側面ともいえる経済的不均衡の拡大またその影響については、今後の持続的な経済成長を考察する上で十分な研究がなされてきたとは言い難い。特に、1990年代から東アジア地域において顕著になった経済グローバル化と経済的不均衡の拡大は重要な問題である。本研究では、こうした東アジア地域の経済成長と経済的不均衡の問題に焦点をあてて、その特徴を主に実証的なデータ分析によって明らかにしていき、今後の東アジアの持続的経済成長を考察・展望していくことである。

2. 研究の進捗状況

これまでの研究では、経済グローバル化と経済的不均衡に関する一般的な先行研究レビューを行いながら実証分析を行ってきた。まず、経済的不均衡に関連して国際的な援助動向と国連ミレニアム開発目標の進展などについて考察を行ったが、アジア太平洋地域では環境関連の目標で懸念される項目はあるものの全体的に進展状況は良好とされている。ただし、これらの目標を達成するためには先進国からの援助の増額が必要であり、世界経済の動向ならびに影響が懸念される。

なお、東アジア諸国の中で国際的に影響力を高めている中国について、経済成長や経済的不均衡、特に所得格差の要因分析などの実証分析を行った。中国の地域(省)別データを用いて全要素生産性(TFP)の推定を行った結果、経済改革以降のTFPは上昇トレンドにあること、また生産要素別にみた場合、資

本の成長への寄与度は上昇傾向にあるが、一方で労働の成長への寄与度は低下傾向にあることが示された。なお、生産要素投入に関する要因についてパネルデータ分析を行ったが、労働については貿易の開放度がプラスで統計的に有意な結果を示している一方で、資本に関しては人的資本の重要性が示される結果となり、先行研究と同様に人的資本と物的資本の形成が補完的な関係にあり、地域の経済成長にも影響を与える可能性が示されることになった。また、中国の地域別1人あたりGDPのデータを用いてパネル単位根検定を行ったところ、地域別には東部地域および中央地域に収斂可能性がみられるほか、所得別には高所得5地域および低所得5地域に収斂可能性が推測される結果となった。

ところで、近年の経済グローバル化の進展とともに、東アジアでは多くの国で所得格差が広がっているが経済成長著しい中国も例外ではない。このように、経済グローバル化の中で中国をはじめとする東アジアで、経済成長と経済的不均衡がどのように推移していくのか実証分析を継続していく。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

これまでに本研究課題に関する先行研究レビューや、経済的不均衡の要因・生産性などの実証分析を行ってきた。実証分析に関しては、中国の省別のデータ量が多大で想定以上に中国に関するデータ分析に時間がかかったため、現時点において他の東アジア諸国に関するデータ分析まで至っていない。今後は幾つかの東アジア諸国を取り上げ、早急にマクロ経済・社会統計データを入手しながら

経済的不均衡の要因分析や生産性分析などを行い、これまでの実証分析を補足していきたい。

4. 今後の研究の推進方策

今後の研究期間はあと1年間となっているため、昨年度までに終了予定となっていた経済的不均衡に関する要素価格の推移、ならびに東アジア地域経済への影響などの残りの分析を早急に進めると同時に、今年度の分析項目となっている今後の東アジアにおける地域経済協力や政策提言に関する考察などを行っていく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Osaka, Hitoshi、 “Regional income convergence and determinants of income growth in China”、Conference Proceedings of The Fifth RUC (Renmin University of China), Kyushu University, Nanjing University Joint Conference、査読無、2010、pp.75-92.
- ② Osaka, Hitoshi、 “The long-term trend of productivity and the determinants of factor inputs since China’s economic reform”、経済学研究 (九州大学経済学会)、査読有、第76巻第2・3合併号、2009、89-109頁。
- ③ 大坂仁「国際援助の動向とミレニアム開発目標の進展：記述データによる現状と展望」、経済学研究 (九州大学経済学会)、査読無、第75巻第4号、2009、95-126頁。

[学会発表] (計5件)

- ① Osaka, Hitoshi、 “Regional income convergence and determinants of income growth in China”、The Fifth RUC (Renmin University of China), Kyushu University, Nanjing University Joint Conference、2010年10月22日、Renmin University of China (中国人民大学、中国北京市)。
- ② Osaka, Hitoshi、 “Empirical analysis on the sources of income inequality in China”、The 12th International Convention of the East Asian Economic Association、2010年10月3日、Ewha Womans University (梨花女子大学、韓国ソウル市)。
- ③ 大坂仁、 “The sources of income inequality in China: a perspective

from human capital”、日本応用経済学会 2009年度秋季大会、2009年11月22日、神戸大学 (神戸市)。

- ④ 大坂仁、 “The long-term trend of productivity and the determinants of factor inputs since China’s economic reform”、中国経済学会 2009年度学術研究会 (東日本部会)、2009年11月14日、日本大学大学院総合科学研究科 (東京都)。
- ⑤ 大坂仁、 “The role of capital stock in China’s economic development: some considerations on physical and human capital stock”、日本応用経済学会 2009年度春季大会、2009年6月13日、名古屋大学 (名古屋市)。

[その他]

特になし。